

【複式指導実践講座 NO.3 複式編制での学習過程～「ずらし」と「わたり」～】

学校教育課だより第94号、第95号において『複式指導実践講座』をお届けしました。各校の「少人数教育の充実」に向け、少しでも参考になっていれぱうれしく思います。

さて、第3回目の講座は、「**複式編制での学習過程～「ずらし」と「わたり」～**」についてです。

「ずらし」とは、2つの学年の指導過程や学習過程の段階をずらして組み合わせることをいいます。



「わたり」とは、一人の教師が2つの学年の学習を成立させるために、1単位時間の学習過程の中で交互に移動して指導を行う教師の動きのことです。

学習過程の「ずらし」

- ① 一単位時間内での「ずらし」
2 学年の学習課題の各段階をずらして組み合わせること。(第95号の図表を参照ください)
- ② 単元全体の「ずらし」
2 学年の単元全体をずらして指導すること。

	単元の導入	単元のまとめ
単元の導入	単元のまとめ	

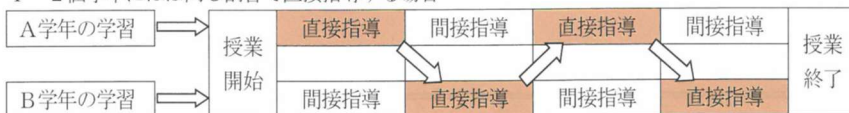
子供の学習活動が途切れないようにするとともに、教えることと考えることのバランスを考慮して、直接指導と間接指導の時間配分を検討します。



教師の「わたり」

- 「わたり」には、いくつかのパターンが考えられます。本時の目標と照らし合わせ、目標達成のために、どのパターンが効果的かを考慮することが大切です。

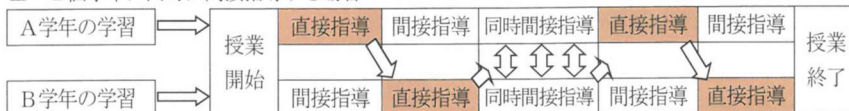
I 2 個学年にはほぼ同じ割合で直接指導する場合



II 1 個学年に重点を置いて直接指導する場合 (A 学年を重点化)



III 2 個学年に同時に間接指導する場合



わたろうとする時点で、子供が自力解決できる状態になっていることが大切です。必要に応じて「同時間接指導」の場を設けていきます。



実際に指導案を見てみましょう

6 本時の指導（第3学年）（9/14）

(1) 本時の目標

豆太が医者様を呼びに行く場面を中心に、「〇〇豆太」を考える活動を通して、場面の様子、登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むことができる。

(2) 本時の展開

6 本時の指導（第4学年）（9/14）

(1) 本時の目標

自分の選んだ作品の中で一番心に残った場面や一文を見つける活動を通して、場面の移り変わりに注意し、登場人物の性格や気持ちの変化を想像して読むことができる。

(2) 本時の展開

第3学年		第4学年	
主な学習活動	教師の働きかけ *評価	主な学習活動	教師の働きかけ *評価
<p>○ 本時の学習課題を把握する。</p> <p>本のおびを作ってしょうかいするために、医者様を呼びに行く場面を中心に読み、豆太のことを表すのにぴったりな言葉を考えて、「〇〇豆太」を書きましょう。</p>	<p>・学習の流れに関する掲示を活用する。</p>	<p>○ 前時で交流した『ごんぎつね』で一番心に残った場面とその理由を振り返り、交流する。</p>	<p>・前時に使用した掲示物や模造紙板書等を掲示しておく。</p> <p>・学習ガイドで交流の台本を示す。</p>
<p>○ 4と5の場面を音読する。</p> <p>○ それぞれの場面にふさわしい「〇〇な豆太」を考えて、「本のおびシート」に書く</p>	<p>・「本のおびシート」を活用する（3時間目から継続）</p>	<p>○ 本時の学習課題を把握する。</p> <p>新美南吉作品をポップでしょうかいするために、人物の気持ちの変化に注意しながら自分の選んだ作品を読み、一番心に残った場面や一文を見つけましょう。</p>	<p>・学習の流れに関する掲示を活用する</p>
<p>○ 自分の考えた4の場面の「〇〇豆太」とその理由を発表する。</p> <p>・「勇気のある豆太」</p> <p>・モチモチの木に火がついているのを見ることができたから。</p> <p>○ 「勇気のある」ということが分かる言葉を確認する。</p> <p>・表戸を体でふっとばして</p> <p>・ねまきのまんま、はだし</p> <p>・真夜中に</p> <p>○ 「なきなき走った」「いたくて、寒くて、こわかった」という表現や泣きながら走っている挿絵があるのに、「勇気のある」と言えるか話し合う。</p>	<p>・全文掲示を活用する。</p> <p>・3の場面までの「〇〇豆太」を確認するとともに、「勇気のある」に一見反する描写を指摘する。</p>	<p>○ 登場人物の気持ちの変化に注意しながら自分の選んだ2つの作品のそれぞれを読む。</p> <p>・登場人物の気持ちが変わるところに付箋（青色）を貼りながら読む。</p> <p>・付箋（青色）に人物の気持ちと変化の理由を書く。</p> <p>○ それぞれの作品について心に残った場面や一文を考え、付箋（赤色、黄色）にその理由を書いて貼る。</p> <p>・人物の気持ちの変化を手がかりにしながら、心に残った場面や一文を探す。</p>	<p>・青色の付箋を用意する。</p> <p>・赤色と黄色の付箋を用意する。</p>
課題把握	直接指導	間接指導	習熟・応用
解決努力	間接指導	直接指導	課題把握
定着	直接指導	間接指導	解決努力

「モチモチの木」と「ごんぎつね」の展開例です。前ページの教師の「わたり」と合わせてご覧ください。指導案があるとイメージしやすいかと思います。

より具体的な実践については、夏休み中に計画しています「授業づくりセミナー」で紹介しますので、ぜひご参加ください。（後日、案内が送付されます）



一学級の人数が少ないことは、一人一人の子供たちを「見取る」時間をたくさん持てるというメリットがあります。複式指導について理解を深めながら、少人数教育を充実させるため、まずは、「指導者の意識改革」「効果的な指導方法の工夫」「実態に応じた弾力的な運用」を図っていきましょう。

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター「へき地・複式学級における学習指導の手引き」（平成31年3月）P20・21・53より

福島県教育庁南会津教育事務所
学校教育課

TEL 0241 - 62 - 5255

HP <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70510a/>

